

生徒ひとりひとりの

こころに届くように

近藤誠一

光村の教科書には、そのすべてのページに、携わったひとびとの、想いと情熱を読み取ることができます。

に入れられるようになった世の中では、心して子供たちに本物の尊さを知る機会を与えることが肝要です。

し、世界の中で、歴史の中で、その価値を認識し、誇りをもって将来にそれを伝えていく上で、英語などの外国語教育は重要です。

教育の究極の目的は、心豊かなひとを育てることです。そこで目指すべきは、知識の量でも、試験で高い点数をとることでもありません。だれもの心の奥にある、真なるもの、善きこと、そして美しいものを求める気持ちを育み、それを引き出すことです。

「匠」の世界という言葉に代表される、本物を求めて止まない日本人の伝統的なこだわりが、日本人精神の真髄として長い歴史を積み上げ、高度に洗練された文化を生んできました。

生徒の座右にある教科書には、印刷物という制約の中で、ひとりひとりの個性にきめ細かく配慮しつつ、こうした本物による教育を果たしていこうとする強い責任感と、質へのこだわりが必要です。光村の教科書からは、そのこだわりを細部まで感じとることができる。

そのためには、日常生活において常に本物に接することが不可欠です。どんなことでも、バーチャルな世界で手軽に手

こうした精神に裏打ちされているからこそ、日本の先端科学技術は世界一の地位を保ち、他の追随を許さないので。このような日本の価値の真髄を子供たちに伝える上で、日本語、書、美術の教育は欠かせません。そして自らを客観視

だから、生徒ひとりひとりのこころに届くのではないかと思えます。



PROFILE Kondo Seiichi

神奈川県生まれ。東京大学教養学部を卒業後、外務省に入省。文化交流部長を経て、ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、駐デンマーク特命全権大使、文化庁長官を歴任。石見銀山、平泉、三保の松原を含めた富士山などの世界遺産登録に携わる。現在、近藤文化・外交研究所代表。東京大学大学院特任教授、東京藝術大学客員教授、慶応義塾大学特別招聘教授、同志社大学客員教授など兼任。『FUJISAN 世界遺産への道』(毎日新聞社)など著書多数。平成28年度版光村図書中学校『美術』教科書著作者。

めくるたびに、未来がひらいていく。

光村図書の教科書が約束すること

時代が大きく変わっていく中で、教育もその在り方を問われています。

光村図書では、このような時代の中で、教科書づくりについて改めて考え、その姿勢と愛情について、この冊子の中でご紹介してまいりました。

子どもの教科書には、時代の変化の中にあって変わることなく、脈々と受け継がれてきた優れた教材が用意されています。同時に、時代に対応しながらも、新鮮な切り口をもつて挑戦する教材が用意されています。

今、求められる力は、光村図書の中学校教科書によって、確実に獲得することができると信じております。